

## 〔学 会〕

## 東京女子医科大学々会第103回例会抄録

日 時 昭和35年12月8日(木)午後2時半  
場 所 東京女子医大新講堂

## 1. 副角妊娠破裂の一例

(屋久第二婦) 大村ひさゑ  
(婦人科) ○牧田燐子

30才の3回産婦において、副角妊娠破裂を来たした重篤な症例に遭遇し、副角切除により、生命を保持した1例を経験した。この例は妊娠3カ月の頃に、某医により子宮内容除去術と同時に両側卵管結紮術を腔式にて行われた例であるが、内容除去術は非妊娠側の主角のみに行われ、副角妊娠側の方においては妊娠が継続したものと思われ、妊娠4カ月中半にて破裂をおこしたものである。主角と副角とは全く交通なく、患側に妊娠黄体を認めた。従つて本症例の妊娠機転は精子の外遊走によるものと考えられる。

2. オキシグラによる生体内酸素測定の一、  
三の問題について

(第一生理) ○草地良作・小泉とし

生体内局所の酸素分圧変動が如何なる要因によつていのかを決めるためには、組織内拡散速度及びHbの解離度に変化がないとしても、局所への血流による酸素供給、または組織の酸素消費の何れかを同時に測定することが必要である。従つて生体内酸素の動態を明らかにするためには、酸素分圧と同時に血流量及び血液酸素濃度の同時測定が望ましい。

このような観点からオキシグラフを利用し、拡散限界電流を陰極側に挿入した抵抗に通じ、簡単な制動回路をへて直流増巾後、通常のペン記録器にて記録する方法を考案した。以上の方法によると容易に生体の他現象との同時記録が容易となる。実際に家兎を用いて皮下酸素分圧と血圧とを同時記録を行い、減圧神経または頸部迷走神経末梢刺激により血圧降下を惹起させた時の変動を追求した。その結果血圧降下は皮下酸素分圧の低下を招くことが多いが、全く変動を伴わない場合もあり、酸素分圧の低下した例では血圧回復後、皮下酸素分圧は回復するが、血圧回復よりも著しく遅れることが多い。又血圧回復後の皮下酸素分圧は血圧低下前よりも増加する例のあること等が明らかとなつた。かかる条件下では組織の酸素消費に著変がみられないとすると、組織酸素分圧変動は microcirculation によつて決められる。従つて以上の結果は microcirculation と macrocirculation とは独立な変動を示すことのあることを示唆しているが、これは極めて注目すべき事実であると考えられる。

3. 九州、北海道炭鉱従業員の寄生虫相の  
比較研究

○白坂竜曠・松本克彦

1956年10月以降、三菱鉱業炭鉱従業員とその家族につき寄生虫の検査を行なつて来た。現在まで延べ約15万人につき再検査を含めて実施し、種々なる成績を得た。またこれと併行して直接現地に赴き、その地域での寄生虫の生態、疫学を調査し、寄生虫の感染対策及び環境の改善もあわせ行つた。この間に得に成績を総括してのべると、

(1) 寄生虫の集団検査法の確立、すなわち寄生虫は種類により、その検査法の相違によつて検出率が変化することか明瞭となつた。回虫は塗抹法、鞭虫は浮游法、鉤虫、東毛については培養法が最も検出率がすぐれていた。この事より集団検便を実施する際は3方法を併用することが望ましいことと考えられる。

(2) 地域相と各種寄生虫の感染との関係

九州と北海道では罹患する寄生虫の種類が異なつた。すなわち回虫、東毛は北海道地区に多く、鉤虫は九州に多く感染がみられた。

(3) 年令と寄生虫感染との関係は、回虫、鞭虫は幼年から少年期にかけてその感染率が高く、鉤虫、東毛については成人屋に検出率が高かつた。

(4) 職業上の相違もまた寄生虫の感染率の上につつの相違かみとめられた。すなわち鉱員と職員では前者が寄生虫感染が各種類につき全部高く、同じ鉱員でも坑内作業者と坑外者では前者にその検出が多くみられた。

(5) 検査と陽性者の駆虫の繰返しにより、3年後の再検査の成績と第1回目の全員検査分の陽性率を比較すると、前回は100とした場合、回虫については3年後は43.29と年分以下、鉤虫については23.9と4分の1以下と想像以上の陽性率の低下を見た。これは駆虫効果のみならず環境の改善による、新及び再感染の防止がうまく行われている結果と判断される。

## 4. 心房細動のキニジン療法に関する研究

——慢性心房細動再発時の再治療——

(心研) 広沢弘七郎

慢性心房細動のキニジン療法は非常に手間がかかり、しかも、時に生命の危険を招来することもあり得る特殊な治療法である。それにもかかわらず、一旦奏効して洞性調律に回復した後も、短期間に高率の再発が起こ